

平成 29 年 8 月 25 日

自由民主党富山県支部連合会  
政務調査会長 武田 慎一 殿

## 平成 30 年度 国・県予算に対する要望書

富山県商工会議所連合会

注) 要望内容の末尾の（ ）書きは、商工会議所の名前です。

凡例：（富山）は富山商工会議所

## 平成 30 年度の国・県予算等に対する要望について

### ④経済建設部会

#### 景気・中小企業対策について

##### 1. 地方創生の原動力となる中小企業・小規模事業者への支援について

我が国経済は個人消費と雇用情勢の改善により緩やかな回復基調にあるものの、一部地域や業種による格差が見られ、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動による影響などから先行きの懸念が強まっている。

このような中、国内景気の回復を持続させ本格的な経済成長路線に乗せるためには、地方創生の原動力となる地元中小企業・小規模事業者の活性化が不可欠である。

については、地域経済の中核を担う中小・小規模企業の活力強化に向けて、次の支援施策を一層強力に展開されたい。

(1) 国内経済は総じて回復基調が強まっているものの、地元中小企業・小規模事業者にとって、官公需による切れ目のない有効需要の下支えは必要不可欠である。

については、安心・安全を軸とした公共事業の安定的な予算確保及び、十分な事業枠を確保され、国直轄事業を含めた県内企業への優先発注と安定的発注に取り組まされたい。(富山)

(2) 人手不足が深刻化する中、地域の中小企業・小規模事業者は「多様な人材の活躍促進」と「生産性の向上」に取り組む必要があり、経営改善には IT・IoT 等の導入・活用が効果的な手段である。

については、中小企業・小規模事業者への IT・IoT 導入を支援するため、IT 導入補助金の継続実施並びに予算の拡充を図られたい。

また、自社の技術や情報、ノウハウ流出のリスク回避について IT セキュリティの重要度が増している。IT セキュリティへの対応・強化は、費用面の負担が

大きいだけでなく、人材不足に喘ぐ小規模事業者にとって業務負担が大きいことから、ITセキュリティ対策が脆弱な中小企業・小規模事業者への支援体制を更に強化され、万全を期されたい。（富山）＜新規＞

（3）富山商工会議所は、平成 27 年 11 月に国の経営発達支援計画の認定を受け、その計画に基づいた小規模事業者に対する「経営計画の策定」や「新たな販路開拓」に関する伴走型支援などを、経営改善普及事業における新たな重要な事業として位置づけた。

当計画の実施では、小規模事業者支援に必要とする経費を補助するための、国からの「伴走型小規模事業者支援推進事業補助金」を活用することになるが、平成 30 年度以降も当補助金に対する十分な予算が確保されるよう国へ強力に働きかけられたい。（富山）

（4）「小規模事業者持続化補助金」は、商工会議所などが小規模企業と一体となって新たな販路開拓を支援することを目的とした補助制度であり、経営基盤が脆弱な小規模事業者にとっては有効な支援施策であることから、当補助金の継続実施とともに、予算の確保を図られたい。（富山）

（5）「革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」（以下「ものづくり補助金」という）は、事業の新展開や革新的な取り組みにチャレンジする中小企業・小規模事業者を支援し、事業実施及び試作開発に必要な設備投資等に要する経費の一部を助成することで当該事業者の発展並びに地域振興を図ることを目的とした制度であり、県内では、これまでに延べ 920 件の中小企業・小規模事業者が採択を受け、全国トップクラスにある。

ついては、富山県内の意欲あるものづくり企業の取り組みを支援するため、「富山県版ものづくり補助金」を創設され、「ものづくり補助金」採択レベルではないが、それに準ずる中小企業・小規模事業者の試作品開発などの新たな挑戦・取り組みを富山県としても支援されたい。

また、これまでに、ものづくり補助金を活用し、試作品開発に取り組んだ中小企業・小規模事業者の販路開拓を支援する補助制度も創設されたい。（富山）

## <新規>

(6) 地域経済を活性化させるには、新たな需要や雇用を創出する「創業」および技術の継承や雇用、サプライチェーンの維持を担う「事業承継」が重要項目である。

新たに創業する者に対し、創業に要する経費の一部を補う「創業補助金」は、経営基盤が脆弱な創業者を支援する制度として非常に効果的である。

また、平成 29 年度に創設された「事業承継補助金」は、事業承継を契機として経営革新や事業転換を行う中小企業・小規模事業者に対し、その新たな取り組みに要する経費の一部を助成する効果的な制度である。

については、地域における創業意欲を喚起し、創業者の取り組みを支援する「創業補助金」ならびに円滑な事業承継を実現する「事業承継補助金」の継続実施及び予算の拡充を図られたい。(富山) <新規>

(7) 地域が活力を維持するためには、中小企業・小規模事業者が保有する「価値ある事業」を後世に残すことが必要であり、円滑な承継に向けた環境整備を進めるべきである。

事業承継に取り組む企業においては、税制上の問題をはじめとする多くの課題が残されており、現行の取引相場のない株式の評価方法は、企業価値を高めるほど評価額が高くなるため、円滑な事業承継の大きな阻害要因となっている。

平成 29 年度の税制改正において、納税面での緩和措置が講じられているが、取引相場のない自社株式の評価方法などについて抜本的な見直しを図られたい。

## (富山) <新規>

(8) 商工会議所は、経営改善普及事業として小規模事業者への伴走型支援に積極的に取り組むなど、中小企業・小規模事業者が抱える複雑・多様化した経営課題に対して様々な支援を行っている。

中小・小規模事業者の経営課題が複雑・多様化する中で、とやまエキスパートバンク(経営・技術強化支援事業費)」は、こうした経営課題に対して、専門家による経営支援を迅速に実施できる極めて効果的な制度である。

また、「小規模事業者持続化補助金」は販路開拓や積極的な設備投資において極めて効果的な制度である。

については、経営改善普及事業として小規模事業者への伴走型支援に積極的に取り組むためにも、「とやまエキスパートバンク（経営・技術強化支援事業費）」をはじめとする小規模事業指導費補助金の増額など検討されたい。（富山）（魚津）

## 2. 小規模事業指導費補助金の拡充と経営指導員等補助対象職員の増員について

我が国経済は、企業の収益や雇用環境が改善されつつあるとの事であるが、いまだ多くの中小企業や小規模事業者は、アベノミクス効果が十分に浸透していない状況にある。地方においても、市場の縮小、後継者・人材不足、設備の老朽化など様々な環境の変化や経営課題が顕在化してきており、商工会・商工会議所の役割が益々高まってきている。

このような中で、「小規模企業振興基本法」および「小規模支援法」が成立し、小規模企業の振興に関する施策について総合的かつ計画的、戦略的に実施するための新たな施策体系が構築されることになった。商工会・商工会議所が組織を挙げて地域事業者の経営支援に取り組み、これまで以上に企業の「成長・発展」を促すとともに、「事業の持続的発展」を支援していくことが求められている。小規模事業者から直接的に相談を受ける経営指導員をはじめとする補助対象職員は、相談内容の多様化や緻密化、国際化等々の広範囲にわたる事案に対応すべく、相談スキルや資質の向上はもとより各種関係機関との連携の強化等、事業主の良きパートナーとして伴走支援ができるよう努力している。

については、全国的に小規模事業者が減少している状況下ではあるが、中小・小規模事業者の支援の拡充・強化、並びに補助対象職員の減員・補助金などの削減がないよう、商工会・商工会議所が実施する経営改善普及事業に対する支援を一層強化されるよう格段のご配慮をお願いしたい。（高岡）（魚津）（黒部）

## 3. 中小企業の人材不足解消への支援拡充について

県西部地区においては、有効求人倍率が1.7倍となり、且つ、求人時給も急騰

する等、中小企業が人材確保に大変苦慮している状況にある。地域社会の活性化には、中小企業が事業発展していくことが不可欠であることは言うまでもなく、その足かせになっている人材不足を解消することは、喫緊の課題となっている。

ついては、地域の中小企業の人材確保への支援拡充、特に、大都市圏からのU I Jターン支援（処遇面での都市間差額助成、移住者の生活安定化への経済的支援、情報提供体制の強化等）の強化とともに、若年労働者の不足を補うため、外国人労働者の受け入れ要件等の規制緩和をお願いしたい。（高岡）〈新規〉

#### 4. 信越、北関東周辺地域並びに、関西とのビジネス交流の推進について

北陸新幹線の全線整備を見据えて、移動時間が大幅に短縮した東京（関東）方面はもとより、大阪（関西）方面を含めたより広域な経済交流を実現することが重要である。

ついては、経済団体、関係機関と連携して、県内産業の振興を図るうえで非常に有効である当該地域とのビジネス交流の支援に引き続き努められたい。（富山）

#### 5. 起業家支援制度の拡充について

県においては、産業活性化並びに地方創生など、各種起業家支援策を講じられているが、県内で起業される方を増やし県内産業の活性化に繋げるためにも、新幹線が開業し2時間圏内となった関東圏での積極的な周知活動が必要であり、県民起業家の支援はもとより、県外からの富山県内での起業家支援体制も拡充すべきと考えている。

そのためには、起業しやすい公設の支援施設の設置や公共施設等のインキュベーション施設などの再利用、またはそれ以後の起業家支援として空き家となっている県営集合住宅(団地)等の工場アパートとしての再利用等など、制度の拡充についてご検討いただきたい。（黒部）

#### 6. 外国人研修生制度の改正について

我が国は少子高齢化が進み、労働人口減少から産業界においては労働者不足が進み、特に地方での製造業を中心として人手不足が叫ばれている。

その中で、外国人研修生制度は職種や研修年限が拡大された。介護分野や医療

分野・サービス分野等、国内での人手不足が想定される分野が拡充され、研修期間も最長5年間とされた。しかしながら、研修生が帰国後の自国産業の成長に資する高度な「ものづくり技術」の伝承には未だ研修期間が不十分と考えている。

については、現行では研修生は全て研修終了後の帰国が義務付けられているが、研修終了後の研修生本人の日本国内での更なる高度技術の習得希望などがある場合などは、研修先企業への研修延長や場合によっては就労が可能となるよう、国において研修制度の拡充を検討していただきたい。（黒部）

## 地域振興について

### 7. 中心市街地の活性化について

魅力あるまちづくりを推進するため、富山市の『第3期中心市街地活性化基本計画』に盛り込まれている事業の実現に向けて引き続き支援されたい。（富山）

### 8. 中心市街地の空き店舗対策について

中心市街地の空き地・空き店舗は、人口規模に関わらず、多くの地域で深刻な問題となっており、まちづくりの大きな課題となっている。これらの問題を放置することは、買い物をはじめとする生活機能の低下や消費の流出をもたらし、地方創生の足かせになる恐れがある。

については、空き地・空き店舗などの利活用に向け、税制面での優遇措置を講じるとともに、助成と制度の利用を更に促進されたい。（富山）<新規>

### 9. 商店街等の広域連携への支援について

近年、全国の商店街を取り巻く環境は、来街者の減少、商店街内の空き店舗の増加、後継者不足等、たいへん厳しいものがある。一方で、地域住民から商店街に寄せられる「地域コミュニティの担い手」としての期待は、これまでになく高まっているものの、商店街によっては単独で取り組める体力が低下している状況である。このような中、県では「富山県がんばる商店街支援事業」を立ち上げ、商店街の活性化を支援している。

については、地域連携支援についての助成額を拡充され、商店街の広域連携につ

いて支援されたい。あわせて、商店街の活性化に向けた地域商品券の発行および県・市の助成措置について検討されたい。（富山）＜新規＞

## 10. 災害対策の推進について

近年、全国各地において地震をはじめとする自然災害が発生しており、県内においても立山弥陀ヶ原の火山防災等の対策が急務である。特に北陸新幹線開業後、観光客やビジネス客が増加した現状においては、来訪者の安心・安全確保のため、ハード面の災害対策推進と並行して、災害時における交通・宿泊・食事等の確保および情報提供、事業者との連携など適切な対応策を整備・周知する必要がある。

については、大規模な自然災害が発生した場合に、県市町村と宿泊施設をはじめとした観光関連施設が連携し、観光客をはじめとする来訪者へ円滑に案内・誘導・情報提供等ができる仕組みの構築を推進されたい。（富山）＜新規＞

## 11. 建築物の耐震改修に関わる支援強化について

平成25年11月25日に施行された「改正耐震改修促進法」により、法で定めた建築物(注1)の耐震診断が義務化され、平成29年2月10日に県、富山市、高岡市により1981年以前に建てられた大型施設(要緊急安全確認大規模建築物)の耐震診断結果が公表された。

当該建築物の耐震改修については、国・県・市町村の「耐震診断義務付け対象である大規模な旅館・ホテルに対する耐震改修への補助制度」により最大44.8%の補助が受けられる。しかし、法で定められた建築物のうち要安全確認計画記載建築物については、県または市町村の指定が必要であるが、未定となっている。

については、防災上、建築物の耐震化は喫緊の課題であり、法で定められた建築物の耐震化を円滑に促進するため、県と市町村の連携を密にし、国の耐震診断・改修に対する支援措置に加えて、耐震改修設計費などに対する県独自の助成制度を早急に検討されたい。（富山）＜新規＞

(注1) 法で定めた建築物

○要緊急安全確認大規模建築物

・旅館、店舗、病院などの不特定多数が利用する建築物および学校、老人ホームなどの避難弱者が利用する建築物のうち大規模なものや一定量以上の危険物

を取り扱う貯蔵場等

○要安全確認計画記載建築物

- ・地方公共団体が指定する緊急輸送道路などの避難路沿道建築物
- ・都道府県が指定する防災拠点施設

## 12. 2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける地場産素材の使用について

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、国民に夢と希望を与えるとともに、日本経済の発展に大きく寄与するものである。大会のメイン会場となる新国立競技場をはじめ、各種競技施設が整備されるにあたり、県内の地場産業が持つ優れたものづくり技術が活用されることにより、地域の産業振興や地域経済の発展に資するものと考えられる。

高岡においては、伝統技術の銅器、漆器のほか、アルミやガラスを生かした地場製品・技術が全国各地でモニュメントや建造物等で高く評価されていることから、当会議所では、これまで高岡市や地元業界関係者らと連携し、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会や日本スポーツ振興センターなどオリンピック関係団体に対して地場製品、技術の採用活動に取り組んできたところである。

については、地域の特色ある「ものづくり技術」のアピールや「地域イメージ」の向上につなげるため、聖火台の作製をはじめ、関連施設の整備における地場製品・技術の採用活動への一層のご支援をお願いしたい。（高岡）＜新規＞

## 13. 県西部地域における拠点施設の整備について

とやま呉西圏域連携中枢都市圏では、アルミ、鉄鋼等の金属・非鉄金属製品をはじめとしたものづくり産業が集積し、銅器、鋳物、木工などの伝統工芸産業も盛んであることから県内の産業拠点となっている。

この圏域の強みを生かし、起業や創業、成長分野への挑戦に対する支援、新技術・新製品の開発支援や環境整備、地域資源のブランディングや戦略的なプロモーションなどの連携事業を進めるにあたり、大学や金融機関のみならず、富山県の支援が必要不可欠である。

については、次に掲げる県西部地域における富山県施設の整備とその拠点施設の

活用に格別のご配慮をお願いしたい。

ア) 圏域内における交流の拡大、産業振興、文化振興に寄与する中核拠点となるコンベンション施設の新設

イ) ものづくり研究開発センターの隣接地への「富山大学国際連携先端材料研究センター」誘致への支援

ウ) デザイン交流創造拠点の整備促進と施設を核とした幅広い産業分野における国内外のデザイナーとの連携促進 (高岡) <新規>

#### 1 4. 氷見高校におけるカリキュラム選択システムの導入について

人口減少下における地方に活力を見出す上で、地元を目指す若年層を育成することが重要である。幸いにも氷見高校には、普通科の他にビジネス科並びに農業科学科、海洋科学科、生活福祉科といった地域に根差した特色ある学科が設置されており、現在は入学時に選択した科を3年間通じて学ぶカリキュラムとなっている。

それらを踏まえた上で、1年生の年度末に、再度自身の進路を選択できる「カリキュラムによる「再選択システム」の導入を要望する。

ビジネス科をはじめとする各科を総じて(仮称)産業創造学科〇〇系として入学し、1年時には、実情に即した実習を幅広く地域に学び、生徒の個性や能力により興味を持った〇〇系を1年末に、生徒自身が再選考することで、真に学びを深めたい学習を重ね、地域と共に新たな価値を創造する人材としての可能性が高められると考える。

今後当市がバランス良く発展するためには、次世代を担う若者が実践力を備え、地元で愛着を持ち、地域社会に活力を与える人材としての育成が重要である。氷見高校が一步先の未来を見据えた人格形成の場として、生徒みずから興味を深めた〇〇系を再選択できるカリキュラムの導入を熱望し、(仮称)産業創造学科の設置を要望する。(氷見) <新規>

#### 1 5. 理科の専科教員等の配置によるものづくり教育の充実について

滑川市は、市民一人当たりの製造品出荷額が県内1位であるなど、ものづくりのまちとして発展している。市では、ものづくりを支え、ふるさとの将来を担う

子供たちを育成するために、市内全ての小学校において、5年生が市内の工場を見学する市内企業見学事業を実施しているほか、小中学生に向けた企業等による出前授業の開催や理科の実験実習の体制を整備するなど、子供たちがものづくりに興味や関心を持つことができる施策を実施している。また、本年4月より特例的な教育課程を編成して、小中学校に新教科「科学の時間」を新設したところである。

については、更なる実験実習等の体験型学習を充実するため、理科の専科教員等の小学校への配置について格段の配慮を願いたい。（滑川）＜新規＞

#### 1 6．黒部宇奈月温泉駅及び周辺環境改善への支援について

一昨年3月の北陸新幹線開業により富山県を訪れる観光客等の交流人口が増え、私どもの住む黒部市への来街者も増加しており、駅を設置していただいたJR並びにご支援いただいた富山県には深く感謝申し上げます。

開業後2年も過ぎ、開業効果の減少とともに色々な課題が浮かんでいる。その中で来市された方々の多くから聞かれる声は、「駅周辺には何もなくて、喫茶店や飲食店の一つもない駅ですね。」である。このような方々のご意見ご要望を思うと、開業準備が誠に足りなかったことを今さらながら痛感している。

については、駅舎内での軽飲食施設や駅周辺での休息・飲食施設の拡充へのご支援を願いたい。（黒部）

#### 1 7．魚津駅・新魚津駅を中心としたまちづくりの推進について

現在、魚津駅・新魚津駅周辺整備については、両駅を中心としたまちづくりの在り方に関して「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会」を設置し、整備の方向性について議論することとしている。

については、次の事項について、格別のご配慮を願いたい。

(1) 魚津駅・新魚津駅を中心としたまちづくりの在り方に関する「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会」への助言や指導

(2) あいの風とやま鉄道線及び富山地方鉄道線共用使用による相互乗り入れの実現とともに、地鉄「電鉄魚津駅」のあいの風とやま鉄道駅新駅としての可能性の検討（魚津）＜新規＞

## 観光・コンベンションの振興について

### 18. 産業観光の振興について

#### (1) 産業観光への支援について

我が国には脈々と受け継がれてきた伝統産業、高度経済成長を生み出し支えてきた産業、世界をリードする最先端技術など、世界に誇れる数多くの産業がある。こうした産業の現場や技術を一般に公開することは、産業観光の受入企業、技術・製品等のPRのみならず、来訪者と周辺地域との様々な交流による地域振興、伝統産業から最先端産業までの技術の進歩、生活を支えるものづくりの重要性の啓発、文化的側面からの産業振興等、社会的意義は計り知れないものがある。

こうした観点から、富山県商工会議所連合会をはじめ、県内商工会議所は、産業観光の振興を推進しており、機運も高まりつつある。

加えて、大学をはじめとする教育機関と連携し、産業観光を通じて、富山はもとより、日本全国や海外にも展開しているグローバルな企業や、付加価値の高い技術を有する企業が数多くあることを学生に知ってもらうことは、大変意義のあることであり、産業観光が地元企業へのUターンや定着による地方創生の一助となりえる。

しかしながら、産業観光を受け入れる企業にとっては、施設整備や人の配置などの負担が発生するのに対し、そのほとんどがボランティアである。

については、現在、富山県観光課で実施している「産業観光魅力創出事業補助金」の継続及び大幅拡充を図るなど、産業観光の推進における企業の負担軽減について、国をはじめ関係機関に働きかけられたい。

また、地元企業の潜在的な魅力をアピールすべく、県の観光PRイベントやUターン説明会などでも産業観光図鑑を一層活用されたい。（富山）（高岡）

#### (2) 産業観光魅力創出事業補助金の拡充について

富山県は、アルミ産業や医薬品、機械、プラスチック、繊維、食品のほか、銅器・漆器、木彫刻、和紙の伝統産業など多彩な地場産業が根付くとともに、全国に誇れる技術や製品を持つものづくりの企業が数多く存在している。近年、観光

のあり方は多様化し、「見る」から「体験する」観光への需要が高まってきていることから、ものづくり企業を中心に産業観光の受け入れ施設を整備し、観光客のニーズに応えていくことが求められている。

については、産業観光の推進をさらに強化し、富山のものづくりを広く情報発信するため、富山県が実施している産業観光魅力創出事業補助金の拡充について、格段のご配慮をお願いしたい。（高岡）

### 19. 富山駅の快適性・利便性の向上について

北陸新幹線開業後の富山駅は1日平均約4700人が利用し、旅行者を中心に、開業前と比べ利用者が大幅に増えた。現在、富山県が主体となり、あいの風とやま鉄道高架化を中心とする「富山駅付近連続立体交差事業」の工事が進められ、この高架化工事に併せて、富山市を主体とした「路面電車南北接続事業」が平成32年3月の完成を目途に進められている。富山市からは、平成31年の秋には歩行者の通行が可能となるよう南北自由通路の一部を完成させると発表があった。

については、南北一体となったまちづくりや乗り換えをはじめ、富山駅周辺における回遊性や利便性の向上に向けて、1日でも早い完成に向けて、県、富山市、鉄道事業者との連携を強化されたい。

また、あいの風とやま鉄道富山駅の高架化に伴う、高架下開発対象エリアについては、県や富山市などで構成する「あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会」により開発の方向性が示され、現在は基本計画が策定中であるが、観光地点やそのアクセス情報を提供する観光案内所の機能が有効に発揮できる配置、及び高架下商業施設、トイレ、コインロッカーほか各施設への分かりやすい誘導案内の充実など利用者の快適性・利便性の向上に向けて関係機関と協議・指導されたい。

あわせて、外国人旅行者のニーズに合った接客サービスや多言語案内表示など設置について助成を図られたい。（富山）＜新規＞

## 基幹交通体系等の整備について

### 20. 日本海国土軸の形成に必要不可欠な北陸新幹線の早期大阪延伸について

北陸新幹線は、開業 2 年余乗車客が 2000 万人を突破するなど、その集客力が証明されるとともに、北陸経済に大きな波及効果を与えている。加えて、東海地震などの大規模災害時において東海道新幹線の代替補完機能も有し、日本海国土軸の形成に必要な不可欠な国家プロジェクトである。フル規格での「東京―大阪間」の全線開通により、その代替補完機能が十分発揮されるとともに、更に大きな経済効果が期待される。

「敦賀―大阪間」のルートが確定されたことで、早期全線開業を求める機運が一段と高まり、大阪・京都・神戸・大津、そして富山・金沢・福井の 7 商工会議所が連携し、北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピールをまとめ、敦賀以西の速やかな着工・開業を求めている。

については、「金沢―敦賀間」の平成 34 年度(2022 年度)末の開業を確実に実現するとともに、敦賀開業を待たず、敦賀以西の工事に着工し、平成 42 年度(2030 年度)を目標に、フル規格による大阪までの全線整備が早期に実現されるよう国をはじめ関係機関に働きかけられたい。

併せて、敦賀駅の乗り換えの利便性を考慮し、新幹線と在来線特急をリレー方式で乗継できるよう国をはじめ関係機関に働きかけられたい。(富山) (高岡)

## 2 1. 北陸新幹線新高岡駅への「かがやき」定期便停車の実現について

北陸新幹線新高岡駅は、富山県西部地域はもとより、石川県能登地域、岐阜県飛騨地域の“飛越能の玄関口”であり、新幹線開業後も、関係各市をはじめ、経済団体や各種団体が連携しながら「一人一客、一人一乗車運動」を展開し、継続的に利用促進を図っているところである。

については、「かがやき」臨時便の継続と定期便の停車について格段のご高配をお願いしたい。(高岡)

## 2 2. 北陸新幹線つるぎの延伸について

北陸新幹線の開業後は関東圏へのアクセスが向上し、ビジネスや観光に多大な貢献をしている。県東部においても関東圏とのアクセスが格段に向上しているが、関西圏や中京圏との経済界の繋がりや、自動車関連や機械関連、観光関連を中心に、今でも深く大きなウェートを占めている。

富山～金沢間のシャトル便として現在運行している「つるぎ」においては観光

客、通勤客をはじめビジネス客の利用も増加傾向にあるが、このシャトル列車「つるぎ」の一部（始発・最終便等）を金沢から上越妙高駅まで延伸させることにより、県東部の住民や産業界の関西圏や中京圏とのアクセスがより一層向上する。合わせて停車駅の増加により、新幹線利用客の富山以東の他沿線ルートからの利用客の増加や利便性が高まるなど乗車率も増すものと考えており、上越妙高までの延伸に積極的な働きかけをしていただけるようお願いしたい。（黒部）

### 2 3. 高山本線の利便性の向上について

「高山本線」は、北陸新幹線経由による観光客が、高山市などを訪れる際の二次交通としての利用価値が高まっているうえに、大雪など防災上の観点からしても重要な路線である。

ついては、「特急ひだ号」の増便や北陸新幹線のダイヤに合わせた接続など、利便性向上を JR 東海・西日本をはじめ、高山本線強化促進同盟会などの関係機関や国へ働きかけられたい。（富山）

### 2 4. JR 城端線と氷見線の直通化及び IC カードの読み取り機の設置について

JR 城端線と氷見線は、通勤・通学や、交通弱者である高齢者のための交通手段として、また、新幹線を利用する観光客やビジネス客の二次交通としても、その存続と利便性の向上が大変重要となっている。

ついては、利便性の向上や、新幹線や並行在来線との接続強化を図るため、両線の直通化について格段のご配慮を賜うようお願いしたい。

また、現在「あいの風とやま鉄道株」では IC カード「ICOCA」が導入され、首都圏や近畿圏など全国のカードとの相互利用がされている。JR 西日本では、今年 4 月に城端線新高岡駅に IC カード乗車券「ICOCA」の改札システムが導入されたところであるが、JR 城端線の他駅や氷見線への導入に関しても、「あいの風とやま鉄道」との連携による両線の利便性向上のため、IC カード読み取り機の設置について、JR や関係機関への働きかけをお願いしたい。（高岡）

### 2 5. 万葉線の海王丸パークまでの延伸について

県内の中央に位置する海王丸パークは、富山県を代表する有数の集客力の高い

観光施設であり、北陸新幹線が開業して以来、入込み客数も増加の一途である。タモリカップ富山大会や全中ヨット選手権大会の開催地でもある新湊マリーナと併せ、全国的に知名度が高まっている。

今後も更なる観光客の集客が期待されるが、北陸新幹線の二次交通としての機能と「ドラえもん ترام」など観光資源としての価値も備える万葉線を海王丸パークまで延伸することは、交通の利便性と観光資源としての魅力の向上という相乗効果を高めるものであり、県の全面的な支援をお願いしたい。（射水）

## 26. 「富山きときと空港」の利用促進について

「富山きときと空港」は、環日本海・アジア交流の拠点空港としての役割を果たす機能充実が一層求められている。

インバウンド振興の観点からも、航空路線の維持安定化は極めて重要である。

については、新幹線と航空機が補完的な関係にあることを強力に周知され、周辺地区との連携を強化し、利用促進を図られたい。（富山）

\*北陸新幹線開業の影響を受け、基幹路線の「富山―東京便」が平成28年夏ダイヤ（平成28年3月27日～10月29日）より6便/日から4便/日に減便となった。また、「富山―ソウル便」については、平成28年10月31日よりアジアナ航空から子会社の「エアソウル」が運航を引き継ぎ、LCC化となった。

## 27. 東海北陸自動車道の富山県側4車線化の早期着手について

東海北陸自動車道は、平成20年の全線開通以来、東海地域と北陸地域の結びつきを強める極めて重要な道路である。しかしながら、全線185kmの内、約68km 36.5%が、いまだ2車線区間の対面通行となっており、その区間においては能越自動車道七尾氷見道路の全線開通や北陸新幹線開業、さらには小矢部アウトレットモールのオープンなど交通量が増えている。

今般、城端トンネル北側坑口～福光IC及び南砺SIC～小矢部砺波JCTの2区間で付加車線設置工事が着手委されたところであるが、引き続きトンネル区間を含め早期の全線4車線化に取り組んでいただきたく、格別のご高配をお願いしたい。（高岡）

## 28. 能越自動車道の国による一元管理と利便性の向上対策について

能越自動車道は、高規格幹線道路網として位置付けられた1本の道路でありな

がら、現在小矢部・砺波 JCT～高岡 IC は富山県、高岡 IC～田鶴浜 IC は国、田鶴浜 IC～穴水 IC は石川県、穴水 IC～輪島 IC は国の管理とまだらになっているとともに、一部区間（小矢部・砺波 JCT～高岡 IC）が現金徴収による有料区間となっている。

本道路は、能登と富山県西部地域の物流の効率化や地域活性化はもとより、災害時の避難・支援道路として大きな役割を担う重要な道路として、一体的な管理下のもとで機動的な運用が必要と考えるので、国による管理や維持整備の一元化と利便性の向上対策をお願いしたい。（高岡）

## 29. 「富山高山連絡道路」の早期完成について

地域高規格幹線道路である「富山高山連絡道路」は、高規格道路である中部縦貫自動車道、北陸自動車道並びに東海北陸自動車道とともに、信頼性の高い道路ネットワークを形成し、防災上のライフラインとしても重要な道路である。

については、当該道路は沿線の産業や広域観光活性化に大きく寄与することから、早期完成を引き続き国へ働きかけられたい。（富山）

## 30. 富山県湾岸都市を結ぶ道路の建設促進について

### （1）一般県道姫野能町線（都市計画道路北島牧野作道線）の整備促進

この路線は、富山新港背後地と高岡市を直接結ぶ重要な道路であり、北陸新幹線新高岡駅や能越自動車道へのアクセスとして、また国道 8 号及び国道 415 号を補完する道路でもあり、本道路改良事業の整備促進に対して格別のご配慮をお願いいたします。（射水）＜新規＞

### （2）七美四方荒屋間の県道新設

七美四方荒屋間の県道建設は、射水市と隣接する富山市、高岡市を相互に結び、国際拠点港湾伏木富山港など広域的な交通拠点と周辺都市の主要拠点を連絡する極めて重要な道路である。

また、輸送効率の向上や一般国道 8 号線の渋滞解消による物流の円滑化が図られ、地域経済の振興に大いに寄与するものであり、湾岸部の都市間連携をより強化にするためにも、射水市（七美）から富山市（荒屋）に向けての道路の新設に

対し格別のご配慮をお願いしたい。（射水）

### （３）湾岸連絡道路（朝日～射水～氷見）の建設促進

富山県の湾岸都市を結び能登地域に通ずる湾岸道路（国道８号～国道４１５号～国道１６０号）は、伏木富山港の三港（伏木港、富山港、富山新港）を結ぶ港湾道路として、また災害時における国道８号のバイパス的な役割を担う重要な幹線道路だが、交通量の実態などに合わせ、早期整備に特段のご配慮をお願いしたい。（射水）

## ３１．国道８号バイパスの建設促進について

国道８号線は、日本海沿岸を縦貫する主要な基幹道路であり、本市の市民生活や産業経済等の振興に大きな役割を果たしている。

近年のモータリゼーションの進展とともに、交通の円滑化が求められる中、平成１６年には、魚津滑川国道８号バイパスが全線で暫定供用開始され、平成２７年度に全線４車線化が図られた。

更に、入善黒部バイパスは、魚津市江口と黒部市古御堂との間の区間が、平成２６年度に暫定２車線で供用開始され、既に供用済みであった黒部市古御堂～入善町上野間と連結した。北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅へのアクセス向上はもとより、新川地域の産業経済や地域間交流の進展に大きく寄与すると期待している。

しかし、本バイパスの供用開始により、著しく交通量が増大しているのも事実で、交通事故等の発生が懸念されている。

については、円滑な交通を進めるためにも、入善黒部バイパスの４車線化の整備促進について、格段のご配慮をお願いしたい。（魚津）

## ３２．北アルプス横断道路構想の推進について

富山県と長野県は、隣県でありながら直接結ぶ道路がありません。立山連峰をトンネルで貫き、富山、長野両県を結び、更には首都圏と最短ルートで結ぶ北アルプス横断道路構想の実現が望まれています。

その実現によるメリットは計り知れず、特に災害時における物流ルートの確保においては、非常に重要な役割を果たすものと考えます。具体的なルートについ

ては、剣岳の真下を合計約17kmのトンネルで結ぶ、上市町馬場島から長野県大町市扇沢間のルートが、厳しい自然条件下にあっても雪や災害などに強く、最も安全で経済的効果も高いものと考えております。

つきましては、北アルプス横断道路構想の推進に向けて、県内の自治体の意思統一や連携した活動及び本ルート調査の推進について、格段のご配慮をお願い致します。（滑川）＜新規＞

### 3.3. 日本海側拠点港伏木富山港の港湾機能の拡充及び整備促進について

#### (1) 富山新港の多目的国際ターミナルの整備

泊地の-14m増深、-12m岸壁の延伸（残約200m）とコンテナヤードの拡張について、引き続き働きかけられたい。（射水）

#### (2) 富山新港に寄港する旅客船の大型化への対応並びに旅客船ターミナル施設の設置について、特段のご配慮をお願いしたい。（射水）

### 3.4. 国内外との定期航路拡充と旅客船寄港誘致のためのポートセールス促進について

#### (1) 諸外国（東南アジア・韓国・中国・ロシア）との定期航路拡充促進

#### (2) 旅客船寄港の誘致促進

県や伏木富山港ポートセールス推進協議会等では、荷主企業や船会社に対し、港湾の利用促進に向けた各種の活動に取り組んでおられるが、引き続き、集荷体制の強化並びに定期航路の開拓・拡充について働きかけをお願いしたい。（射水）